



北海道紋別高等学校 学校便り

# 希望の学府



第205号

北海道紋別高等学校

〒094-8643

北海道紋別市南が丘町6丁目3番47号

TEL : 0158 (23) 3068

発行日 令和8年1月26日

## 新年のご挨拶

生徒の皆さん、保護者の皆さん、そして地域の皆さんにおかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

新しい年を迎え、生徒の皆さんには、それぞれが自分なりの目標を持ち、日々の学校生活を大切にしてほしいと思います。高校生活は、学習はもちろん、人との関わりやさまざまな経験をとおして、自分自身を見つめ、将来を考える大切な時間です。思い通りにいかないことがあっても、その経験が必ず次につながります。挑戦する気持ちを忘れず、一歩一歩前進していってください。

さて、本校では本年4月より、「学校運営協議会」を設置し、学校・家庭・地域がこれまで以上に連携しながら学校づくりを進めていくことになります。地域の方々や保護者の皆さんと学校が目標を共有し、意見を交わしながら、生徒の成長を支えていく新たな取組です。学校が地域に開かれ、地域とともに歩むことで、生徒の学びがより豊かで実りあるものになることを期待しています。

本校はこれからも、「安心して学び、互いを認め合い、自分らしく成長できる学校」を目指し、教職員一同、力を合わせて教育活動に取り組んでまいります。保護者の皆さん、地域の皆さんには、今後とも変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が生徒の皆さんにとって充実した一年となること、そして本校に関わるすべての皆さんにとって、健康と笑顔にあふれる一年となりますことを心より願い、新年のご挨拶といたします。

校長 八丁 正樹

## 課題研究発表会

総合ビジネス科・電子機械科合同の課題研究発表会が、12月16日（火）に本校体育館で開催しました。

当日はお忙しい中、ご来校くださいました保護者及びご来賓の皆様に厚くお礼申し上げます。

課題研究発表会は、研究テーマの設定から調査・分析、考察に至るまでの過程を通じて培った探究力や表現力を、3年生の発表を通して1、2年生と共有するものです。

3年生が日頃から課題に感じていることを解決するために、3年間で学んだ知識や技術を生かして、取り組んだ成果を分かりやすく発表してくれました。学校の施設設備の改善や地域課題の解決など、学校愛や地元愛に溢れた発表内容もありました。

1、2年生には先輩達の研究成果をしっかりと受け継ぎながら、新たな課題の発見や、様々な課題の解決に向けてチャレンジしてほしいと思います。

次年度も課題研究の授業に関わって、引き続き地域の皆様のご協力をよろしくお願ひします。

文責：電子機械科 科長



## インターンシップ報告会

11月6・7日の2日間、紋別市内の23箇所の各事業所において、総合ビジネス科、電子機械科の2年生全員と、普通科の2年生希望者の合計39名がインターンシップに参加しました。12月16日には、1・2年生を対象に本校体育館で報告会を行いました。8グループ、計15名から発表がありました。ご来賓として紋別公共職業安定所の高見 聰 様や今回のインターンシップを受け入れてくださった事業所の方々が来校されました。

各グループの発表者からは、事業所の業務内容、体験内容、インターンシップをとおして学んだことなどを堂々と発表していました。発表の中では、どのグループからも「コミュニケーションの大切さ」「目上の人との接し方の大切さ」などをあげていました。発表を聞いた生徒からは、「介護体験では利用者に合わせた声かけや、安心して介助を受けてもらうための目的を持ったコミュニケーションが大切であると知ることができ、意義のある報告会であった。」などの感想が寄せられました。

終わりに、インターンシップを受け入れてくださった多くの事業所の方々、報告会に来校されたご来賓の方々に心よりお礼申し上げます。文責：インターンシップ担当教諭



# 紋別市青少年短期留学派遣団に参加して

1月7日から14日までの8日間(現地滞在6日間)、紋別市青少年短期留学派遣事業としてタイを訪問しました。本校からは、総合ビジネス科3名、普通科3名の計6名が参加し、引率として市職員2名、中学校教員1名、本校教員1名が同行しました。

出発前、生徒たちは英会話アプリを活用しながら、英語やタイの文化について事前学習を行いました。空港での出入国手続きでは、英語での対応に戸惑いながらも、身ぶり手ぶりを交えて積極的に伝えようとする姿が見られました。

現地では、バーンパコックウィターヤーコム学校やビーコンハウス・ホアヒン分校を訪問し、伝統舞踊やお菓子作り、授業体験、プログラミング体験などを行いました。言葉が十分に通じなくても、笑顔や行動を通して気持ちが伝わり、生徒同士の距離が縮まっていきました。

また、ホアヒンやバンコク市内では、寺院や市場を見学し、タイの歴史や文化、日本とは異なる生活の様子を実際に感じることができました。

後半では、本校が長年オンライン交流を続けてきたウドムスクサ学校を訪問しました。歓迎セレモニーでは、卒業生が通訳として参加し、安心した雰囲気の中で交流が行われました。その後、日本の代表的なお菓子「どら焼き」を用いたグローバル販売実習を実施しました。

この販売実習の目的は、英語で販売することだけでなく、総合ビジネス科の特色である「おもてなしの心」や「相手を意識した接客」を実践する学びです。生徒は英語で声をかけ、相手の反応を見て工夫する中で、実践的なビジネスの難しさと楽しさを学びました。その結果、100個のどら焼きは短時間で完売し、生徒たちは大きな達成感を味わうことができました。

言葉や通貨の違いに戸惑う場面もありましたが、現地の生徒や卒業生の支えを受けながら、国を越えて協力する経験を積むことができました。帰国後は、英語を使うことへの抵抗が少なくなり、自信を持って話そうとする生徒の姿も見られます。

今回の国際交流を通して、生徒たちは異文化を理解することの大切さや、学んだことを実際に行動に移す力を身に付けました。この経験が、今後の学校生活や将来を考える上で大きな一歩になることを期待しています。

文責：総合ビジネス科 科長

